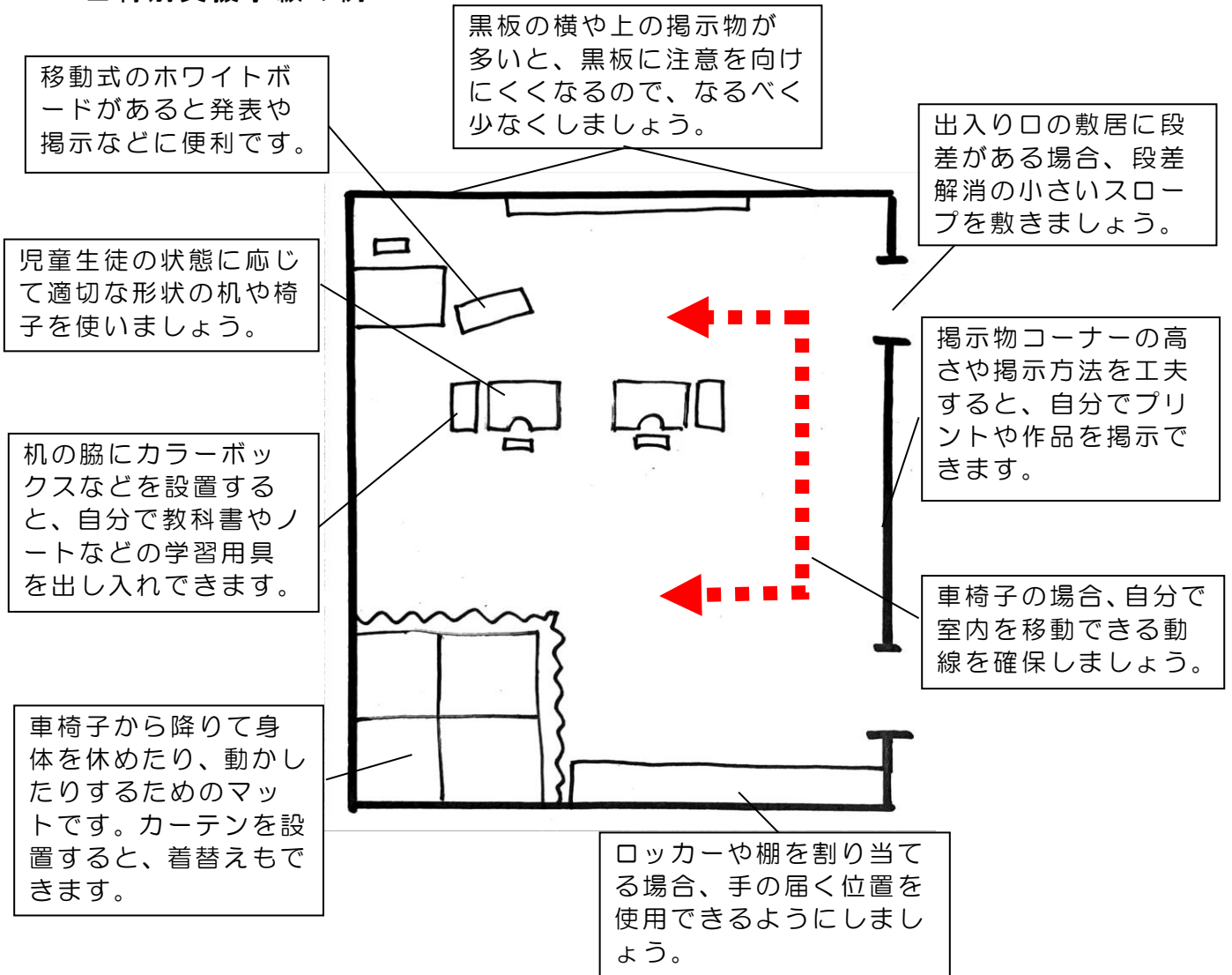


5 (1) 学習環境について

Q：備品や配置など、どんな点に気を付ければよいですか？

A：安全面、動線、自分でできる工夫など、児童生徒の実態やねらいに応じて環境を整えます。下記は、車椅子を使用している児童生徒2名を想定した教室環境です。

■特別支援学級の例



<段差解消スロープ>

車椅子を使用または歩行の不安定な児童生徒の場合、わずかな段差でも妨げになったりバランスを崩したりすることがあります。教室の敷居やトイレの段差などを自分で通行できるよう、スロープなどを設置すると安全です。ホームセンターでも購入できます。



<ぶつかり防止用クッション>

歩行の不安定な児童生徒の場合、万が一の転倒に備えて、ロッカーや机の角に保護材を貼ります。ホームセンターや100円ショップで購入できます。



<マット>

長時間車椅子に乗っていると身体に負担が掛かるため、降りて身体を休める時間が必要です。セラピーマ



ットやエアレックスマット等はクッション性があり、立てかけたり畳んだりすることもできます。

<カーテン>

着替えやトイレ介助、休息をとる場合に便利です。天井から吊り下げて設置すると使いやすいですが、ついででも代用できます。



<コートやかばん掛け>

車椅子を使用している児童生徒の場合、常設のコート掛け等に届かないことがあります。鴨居フックを使って低い位置にコーナーを設置することで、自分で鞆やコートを片付けることができます。



<配線コード類>

室内で配線コードを使う場合は、安全のため、壁際にテープ等で固定しましょう。

行事等で児童生徒の通り道に這わせる場合には、コードの上に足拭きマットをかぶせると、車椅子でも安全に通れます。

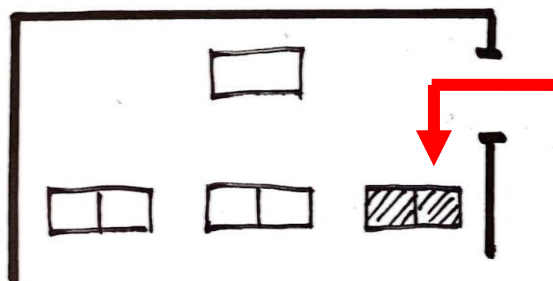
小さな段差にも対応できます。



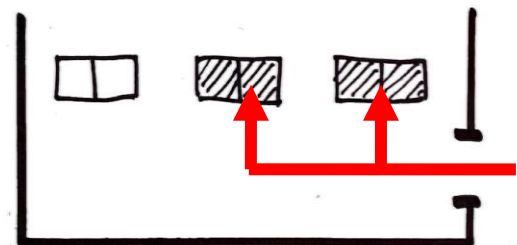
■交流級における座席配置の例（特別支援学級在籍の場合）

車椅子を使用する児童生徒の場合、授業の途中での出入りがあることが予想されます。教室の出入り口近くの座席であれば移動しやすくなります。ただし、座席からの角度や距離によっては黒板が見えにくくなる場合がありますので、確認をして選びましょう。

教室の前方



教室の後方



Q：机や椅子はどのようなものを使えばよいですか？

A：様々な形状のものがあります。児童生徒の実態に応じて適切なものを選びましょう。現在使用しているものに一工夫を加えることでより使いやすくなる場合もあります。

■ 様々な机

<カットアウトテーブル>

くり抜いた形状で、身体に合わせやすくなっています。車椅子でも使用できます。脚の高さを簡単に換えられます。



<枠付きテーブル>

天板が広く、外周に学習用具などの落下防止の枠が付いています。



<オーバーテーブル>

車椅子に合わせて簡単に高さが換えられます。キャスター付きで、移動教室などに便利です。



<車椅子に付属のテーブル>

車椅子に固定できるので、移動や校外での学習に便利です。*ただし、天板をはめると車椅子の自走はできません。



■ 様々な椅子

<養護椅子>

肘掛け付きの椅子で、同じ姿勢をとることが難しい子どもを補助します。肘掛けは取り外しができます。



<養護椅子（サポートクッション付）>

姿勢の崩れを防ぐためのサポートクッション付き椅子です。市販のもの以外にウレタンやマット等で代用できます。



<座位保持椅子>

適切な姿勢で学習できるよう、一人一人の身体に合わせて（背もたれや座面、ベルト等）作られます。



■机や椅子周辺の工夫

<机の近くにカラーボックス等の棚を設置>

机の脇にカラーボックス等を設置することで、座席に座ったまま自分で学習用具の出し入れをしやすくなります。



時間に余裕をもって次の学習の準備ができます。

引き出し式収納は、プリントや細かい物の仕分けができます。



<姿勢の崩れを防ぐ椅子の工夫>

座ったときに座面の隙間が多いと、姿勢が左右に傾いたりのけ反ったりして不安定になることがあります。



お尻が前方に滑ってしまう場合には、市販の滑り止めシートを敷くと有効です。

ウレタンやマット等を適度な大きさに切ったり重ねたりして、背中や両脇に挟むことで隙間が埋まり、姿勢が安定します。



<書見台>

書見台と呼ばれる斜めの台に、教科書やノートを置くことで、読み書きしやすくなる場合があります。台の角度を調節することができます。



<移動式ホワイトボード(ミニ)>

個別の学習やグループワークの際に、教師だけでなく、児童生徒も書き込むことができます。小さいタイプがあると便利です。



<どっちもクリップ>

両端がクリップになっていて、片方で机を挟みもう片方で教材等を留めると、固定されて便利です。アームが自由に曲がるので好きな角度で固定できます。2本あるとタブレット端末にも使えます。



<タブレットスタンドいろいろ>

タブレット操作をする際に、見えやすいまたは操作しやすい角度や位置に調整可能です。



5 (2) 読むこと・書くことについて

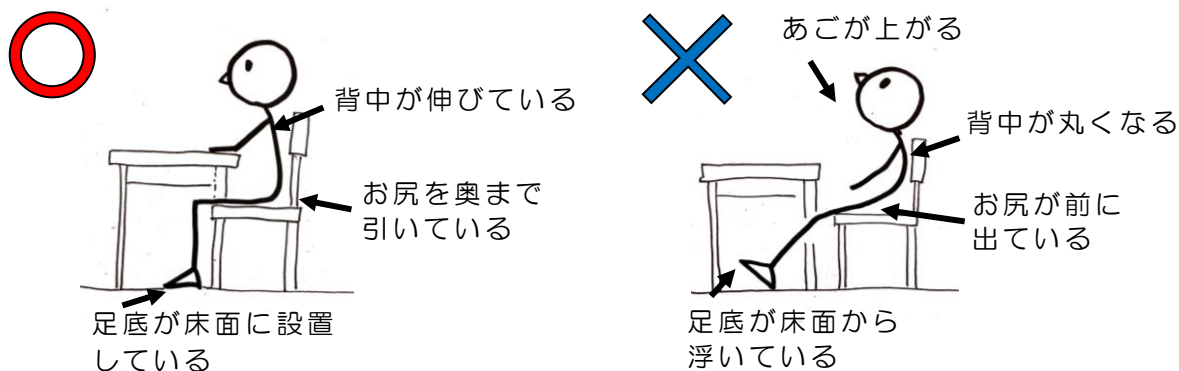
Q：書字ではどのようなことに配慮したらよいですか？

A：小中学校からの相談の中で、「文字を書くのに時間が掛かる」「字形が乱れる」等、書くことに関する相談が多く聞かれます。姿勢や学習用具、書く内容の工夫や配慮で改善されることがあります。学年進行とともに筆記の量が増えていきますので、書くことだけにこだわらず、様々な手段を取り入れてみることも考えてみましょう。

■安定した姿勢を保持できるようにしましょう。

書字は、**上肢だけでなく、体幹や下肢の安定**が動作の基盤となります。姿勢を確認し、実態に応じた机や椅子を使用しましょう。更に必要な場合にはクッションや滑り止めなどで安定させましょう。（*P12～13 机や椅子 参照）

体幹を保持する力や筋力が弱い場合には、「カットアウトテーブル」などを使用して、**机上に肘を置くこと**で書字姿勢が安定します。



■筆記用具等を工夫しましょう。（※詳しくは、「8教材・教具について」参照。）

- ・市販の鉛筆グリップ等を付け、**持つ部分を太くすることで握りやすく**することができます。
- ・鉛筆の正しい持ち方は、親指、人差し指、中指の3本の指で軽く持ち、**手の平の部分に空間**ができる状態です。まひや不随意運動があると、この状態を作ることが難しいことが多いため、空間を作るためのボール型グリップが有効です。市販されていますが、ゴルフ練習用穴あきボールで代用することができます。（写真）
- ・筆圧が弱い場合には、**4B以上の芯の柔らかい鉛筆**を使うとよいでしょう。
- ・紙やノートが動かないように**固定**しましょう。マスキングテープで仮止め、バインダーで固定、市販の滑り止めマットの使用などの方法があります。



写真

■書字の量を調整しましょう。

- ・**穴埋め式のプリント**等で、書く量を減らしましょう。書く量が多いと、板書を書き写すだけで精一杯になり、話を聞いたり考えたりする時間の確保が難しくなります。
- ・聞いて覚えることが得意な児童生徒も多くいます。できるだけ聞くことに集中できるよう、先生が**ノートの代筆**をする支援も考えられます。
- ・プリントの**拡大コピー**や、マス目の大きいノートの使用が有効な場合もあります。

■ ICT 機器を積極的に活用しましょう。

- タブレット端末やパソコンを活用することで、自分の力でできるという自信や意欲につながります。
- パソコンの使用に当たって上肢の動きに困難さがある場合、キーボードカバーやマウス等の補助具があります。
- ワークシートの**テンプレート**を用意することで、空欄に自分で文字入力を行うことができます。
- 板書を書き写すことが難しい場合、**カメラ機能で板書を撮影**しておくと、ノートとして活用できます。
- 観察学習などで、車椅子のため対象物の近くに行けない場合は、デジタルカメラやタブレット端末で撮影し、手元で見ながら写生や観察をすると便利です。

Q：文字や図などを読み取るための配慮点がありますか？

A：肢体不自由のある児童生徒の中には、視知覚に障害があるため、文字を読んだり、図形を比較したり、複数の情報から対象物を見付けたりすることに困難さがある場合が見られます。

■文字の大きさを拡大しましょう。

- 教科書や市販の絵本は、文字が小さくて読みにくいことがあります。必要に応じて**拡大コピー**をとるなどして、読みやすくしましょう。
- パソコンやタブレット上に表示し、拡大する方法もあります。

■プリントの情報量を工夫しましょう。

- 1枚の**情報量を絞ります**。たくさんある場合には、1枚の情報を少なくして複数枚に分ける方が読み取りやすくなります。

■注目するところを目立たせましょう。

- 行を飛ばして読んでしまったり、読んでいる所を見失ってしまったりする児童生徒には、**リーディングスリット**の使用が便利です。ただし、自分でスリットをずらしていく動作を伴いますので、上肢の動きに困難さがある場合は難しいこともあります。
- 自作プリントを使用する場合は、**読み取りやすい字間や行間**を設定しましょう。
- 注目する箇所に色を付ける、太線で示す、枠で囲う、コントラストを工夫する等で示すと識別しやすくなります。

Q：テストでの配慮点がありますか？

A：上肢の動きの困難さや視知覚の困難さ等により、解答の記入や設問の読み取りが難しい場合があります。

■多様な解答の仕方を準備しましょう。

- 解答欄の枠内に文字を書き入れることが難しい児童生徒には、**枠を大きく設ける**ことで、書きやすくなります。
- 書くことが難しい場合には、**口頭や代筆、ICT 機器**を使った方法も考えられます。



■算数・数学では、計算用紙を別に準備しましょう。

- 「見ること」に困難さがある場合、テスト用紙の余白に計算をしていると余白が埋まり、どれが解答なのか見失うことがあります。また、余白だけでなく問題文や解答欄にまではみ出ることも考えられます。1 問につき 1 枚の計算をメモできるよう、**計算用紙**を複数枚準備するとよいです。

■問題を分けてみましょう。

- 1 枚の情報量が多いと、見るべき箇所が分からなくなったり、読み飛ばしたりすることがあります。**設問を分けて**、テスト用紙を複数枚にするなどの配慮が考えられます。

■テストの時間延長も考えてみましょう。

- 書字に時間が掛かる児童生徒は、テストの解答を考える時間よりも、考えた答えを解答欄に書くことに大部分の時間を費やしてしまいがちです。

■入試や様々な検定を受検するにあたり、配慮申請をしましょう。

- 高校や大学入試、様々な検定（漢字検定や英語検定など）を受けるにあたり、**配慮申請**を行うことができます。申請内容、添付書類、申請申込期限などを熟読し、不足のないよう手続きを進めてください。
- 障害の状態に応じて、時間延長、問題や解答用紙の拡大、解答の仕方など様々な配慮がありますので、受検要項をよく読みましょう。必要な配慮により、力を発揮することにつながります。

5 (3) 教科の指導について

Q：図工や美術の造形活動で使いやすい道具はありますか？

A：上肢の動きに困難さがある場合、描く・切る・貼るなどの活動を思い通りに取り組めないことがあります。便利な道具を使用することで、一人で取り組める部分が増えます。

■「塗る」

- ・絵筆を使って描くことが難しい場合は、ローラーやタンポ、刷毛を使うことで表現が広がります。(写真①)
- ・絵筆やローラーなどの持ち手が上手く握れない場合は、持ち手にタオルなどを巻き付けて太くすると握りやすくなります。
- ・指に筆を直接はめる「ゆび筆」は、筆を持つ負担が軽減されます。(写真②)



写真①



写真②

■「切る」

- ・手のまひや握力の弱さから、はさみの開閉、特に開く動作に難しさのある児童生徒が見られます。軽い力で握ったり(写真③)、机の上に置いたまま切ったり(写真④)など、いろいろな形の特殊はさみが市販されています。通常のはさみでも、刃の片側を粘土で固定する(写真⑤)と、柄を上下するだけで切ることができます。
- ・まっすぐ切る場合は、スライドカッターを使うと便利です。



写真③



写真④



写真⑤

■「貼る」

- ・スティック糊やテープ糊を使うと、線を引くように動かすことが難しい場合があります。スタンプ型の糊は、数箇所を押すだけなので失敗が少なくなります。

Q：リコーダーを演奏するときにはできる工夫はありますか？

A：小学校の音楽では、3年生からリコーダーを取り扱います。上肢の動きに困難さのある児童生徒の場合、指で押さえることが難しいことが考えられます。

■魚の目パッドを利用することで、押さえにくい音孔を、軽い力で押さえることができ、演奏できる音を増やせます。

- ・児童生徒がリコーダーを演奏する様子を観察し、自分でしっかり押さえられている音孔はそのままにし、押さえにくい音孔に市販の魚の目パッドを貼ることで、押さえやすくすることができます。



■指の状態に合わせて、音孔を押さえやすい位置に移動できるリコーダーもあります。

- ・このリコーダーは、使う人の指の状態に合わせて音孔を押さえやすい位置に移動し固定することができます。トヤマ楽器より販売されています。
- ・改良リコーダーとして、片手で演奏できるリコーダーがヤマハ楽器より販売されています。



■児童生徒の実態に応じて演奏方法を工夫しましょう。

- ・本人と相談しながら**多様な方法**を提案しましょう。
例えば・・・出せる音だけで参加する。
他の楽器で参加する。
上記のような改良リコーダーを使用する。

Q：体育では、どんな題材がありますか？

A：小中学校からの相談で、体育に関する内容がとても多いです。本校で取り組んでいる種目をいくつか紹介します。

■ ボッチャ

- ボッチャは、簡単に説明すると「的当てゲーム」です。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤と青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり転がしたり他のボールに当てたりして、いかに近付けるかを競う競技です。
- 投げ方にきまりはなく、補助具（ランプ）を使うこともできます。アシスタントは、ボールを渡したり、ランプを支えたりしますが、コート内を見て指示したり、助言したりすることはできません。
- 1対1の個人戦、複数の人数で行う団体戦があります。
- 本校では正式なルールの他に、児童生徒の実態や集団規模などに応じて様々なアレンジを加えて取り組んでいます。『**きらりNet 第139号**』で紹介しています。



ランプを使った投球の様子。アシスタントはコートを見ないようにランプを支えます。



■ ピン倒しボール

- テニスボールを投げる、転がすなどして、20本のピンを制限時間の2分以内に倒し、そのタイムまたは倒した本数を競う競技です。
- 直径2メートルのセンターサークル上に20本のピンを等間隔に配置し、60個の硬式テニスボールを使用します。
- 1チーム5名以内で編成し、60個の球を配分して使用します。
- 秋田県特別支援学校総合体育大会の競技種目になっています。



スロープを使用することができます。アシスタントはボールを手渡すところまで支援できます。



■ バドミントン

- 通常のシャトルを打つことが難しい場合には、風船を使います。滞空時間が長いのでラケットに当てやすくなります。
- シャフトの短いものやヘッドの大きいものなど、ラケットを選びます。(写真①)
- 児童生徒の実態に応じて、ネットの高さを調整します。本校では簡易ネットを使用しています。(写真②)



写真①



写真②

■ 野球

< 攻撃 >

- バッターはティーバッティングでボールを打ちます。(写真③) 打った後に走る必要がないので、車椅子の操作が苦手でも参加できます。
- 攻撃は一人 5 球×3 人です。
- 最初に当たったカードの内容 (アウト、Oベース、ホームラン) に従います。
- シングルヒットは 1 点、2 ベースは 2 点・・・等点数を設定します。

< 守備 >

- 守備のチームは「アウトカード」をフィールドに自由に配置します。「ヒットカードは」固定で配置しておきます。(写真④)



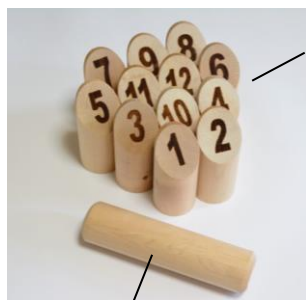
写真③



写真④

■ モルック

- フィンランドで開発されたユニバーサルスポーツで、車椅子に乗ったまま競技ができます。
- モルック棒を投げて倒したスキットルの内容によって得点を加算していき、先に 50 点ぴったりになるまで得点した方が勝ちです。
- 下から投げれば持ち方は自由です。2 チーム以上で競います。



モルック棒

スキットル

最少人数の 2 人 (1 対 1) から対戦可能で、狭いスペースでもできますので、道具さえあれば手軽にできます。



■サーキット

- サーキット運動は、児童生徒の実態に応じて種目を選択できるメリットがあります。車椅子に乗ったまま取り組める種目も準備しておきます。
- 児童生徒のねらいに応じて、易→難の課題設定や変更がしやすい題材です。



トンネルくぐり



滑車引き



橋渡り



鉄棒ぶら下がり

***手術後など特別な配慮が必要な場合は、どの程度の動きなら可能か等、医師の許可や確認が必要なこともあります。**

○参考サイト

- 宮城県立拓桃支援学校 拓桃スポーツ集 <https://takuto.myswan.ed.jp/sports>